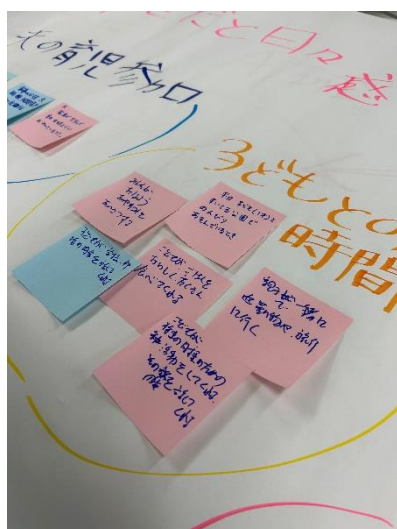


これまでに実施した意見聴取について（報告）

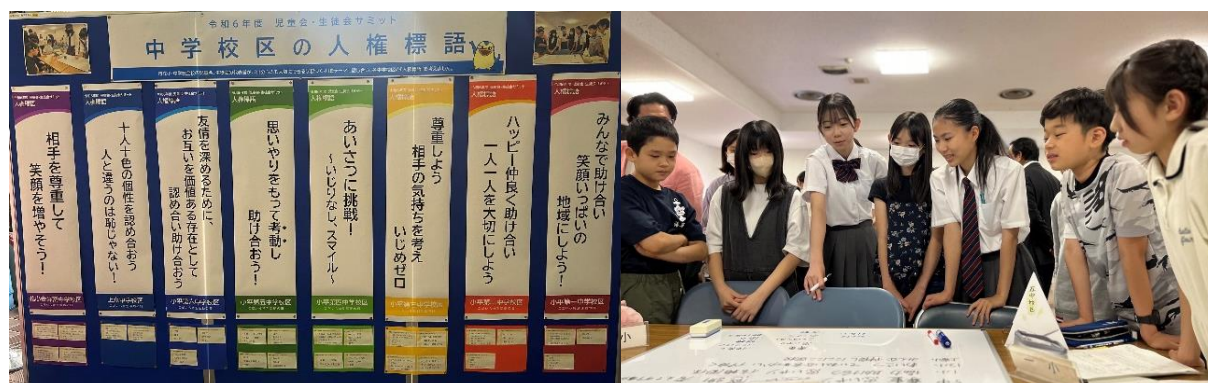
【令和6年度】

	実施日・期間	内容
①	5月17日	令和6年度小川西町公民館事業企画委員企画子育て支援講座第1回目で、講義とグループワークを実施
②	6月8日	児童会・生徒会サミット（こだいら特別活動の日）にて、中学校区ごとの人権標語を作成（教育委員会）
③	7月30日～ 8月2日	中央公民館「ジュニア大学 小平の美味しいものでクッキング！（全4回）」参加者にアンケート調査を実施
④	8月22日	学習支援事業の中学3年生向け夏期講習出席者にアンケート調査を実施
⑤	9月8日	ニュースポーツデー（文化スポーツ課主催）に参加した保護者（子育て世代）等にアンケート調査を実施
⑥	9月18日	令和6年度第2回市民と市長のタウンミーティングを小川町二丁目児童館で実施し、児童と市長の意見交換を実施
⑦	10月6日～ 25日	地域学習支援課主催青少年リーダー講座参加者にアンケート調査を実施
⑧	11月～12月	武蔵野美術大学「市の課題に関する報告会」で、クリエイティブイノベーション学科学生に調査・研究を依頼
⑨	令和7年 1月14日	小平第四中学校生徒会の生徒にグループワーク形式で意見聴取を実施
⑩	令和7年 1月19日～29日	小川町二丁目児童館にてシール投票「こどもの権利って知ってる？」を実施
⑪	令和7年 1月29日～2月7日	二十歳のつどい実行委員会委員にアンケート調査を実施（地域学習支援課経由）
⑫	令和7年 2月17日	都立小平西高等学校生徒会の生徒にグループワーク形式で意見聴取を実施
⑬	令和6年11月 ～令和7年1月	こども家庭センターの妊婦面談対象者にアンケート調査を実施

意見聴取の場	①令和6年度小川西町公民館事業企画委員企画子育て支援講座第1回目
日にち	令和6年5月17日（金）
場所	小川西町公民館
対象者	子育て世代・子育てに関連のある方 15人
実施形態	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：こども・若者計画、（仮称）小平市こども計画に関する講義 ・グループワーク：テーマ「幸せだと日々感じる生活とは」
意見の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境：親が幸せであることがこどもの幸せにつながる。そのためには経済的、精神的に余裕のある生活が必要で、家庭が安心して過ごせる場所であること、経済的不安がなく食事が満足にとれること、家事や育児の分担やこどもを預ける場所があること、また困ったときの支援に関する情報提供等が重要。 ・こどもの環境：学校で安心して過ごせ、いじめがなく、個性にあった環境があること。また、本音で何でも話せる相手がいいて、睡眠時間がきちんととれて、疲れをとることも大切である。 ・コミュニケーション：親子間のコミュニケーションや、親の社会的な交流が重要。あいさつをする、一緒にご飯をおいしく食べる、こどもとの会話がある、近所の方との交流がある、対話の場、相談窓口が必要である。 ・余暇時間（親）：家事・育児が終わってのんびりする時間があること、旅行や飲み会などに自由に行ける時間があることも大切である。また、親子でのんびり遊びたいという意見もあった。



意見聴取 の 場	②児童会・生徒会サミット（こだいら特別活動の日）
日　　ち	令和6年6月8日（土）
場　　所	福祉会館
対　象　者	小学6年生・中学3年生（市内の全小・中学校代表の児童・生徒） 55人
実施形態	「自分も人も大切にできる学校づくり」をテーマに、大切にしたいことのキーワードをあらかじめ各校で話し合っ持ち寄り、中学校区ごとの人権標語を作成した。
意　見　の 内　　容	<p>小学生からは「中学生がスムーズにまとめてくれて、意見を出しやすかった」「来年からは（今日出席していたような）すごい中学生になろうと思った」、中学生からは「小学生と関わるのがあまりないため新鮮だった」「小学生の豊かな発想にとっても驚いた」など、学校区での交流に関する意見があった。</p> <p>また、「自分たちが思い浮かばなかった意見があったので、人がこんなに集まると色々な意見が出るんだと感じた」「小平市という広い区域の中でも、学校で楽しく過ごしたい、相手と良い関係を築きたいという思いは同じなんだとわかった」「様々な学校の人と話をして、自分の意見を伝えることの大切さを知った」などと、他の出席者と自分を比較し、新たな気づきを得た感想があった。</p> <p>学校生活にどんな形で活かしていきたいか、については、「今回決めた標語を達成できるように、まずは積極的に困っている人を助け、自分から動いていきたい」「まとめてくれた中学生のように、みんなをまとめられるようになりたい」「今日のように他学年とも交流して、学校、地域、小平市をよりよくしていきたい」「お互いを尊重することができるような話し合いを続けていきたい」という意見があった。</p>



意見聴取 の 場	③中央公民館ジュニア講座
日 に ち	令和6年7月30日（火）～8月2日（金）
場 所	中央公民館
対 象 者	「ジュニア大学 小平の美味しいものでクッキング！（全4回）」 参加者（小学3・4年生） 11人
実施形態	アンケート
意 見 の 内 容	<p>「あなたにとっての居場所（ほっとできる、安心できる場所）はどれですか。」の設問に対し、上位の回答に「自分の部屋以外の中」「自分の部屋」「学校の教室」が上がった一方、少数であるが「地域（図書館、公民館、児童館、公園など）」「インターネット空間（SNS、YouTube、オンラインゲームなど）」「学習塾・習いごとの場所」を選択した人がいた。「落ち着く場所がない」を選択した人はいなかった。</p> <p>「あなたは今、悩んでいることはありますか。」の設問に対し、一番多い回答が「その他」で「特にない」と書いた回答であった。</p> <p>「あなたが困ったり悩んだりしたとき、相談できる人を選んでください。」の設問に対し、多い順に「お母さん」「お父さん」「友だち」「学校の先生」となり、「相談できる人はいない」を選択した人はいなかった。</p>

小平市 ~ あなたの思い、きかせてください ~
 アンケート調査
 ご協力をお願い

小平市では、子どもがまんやかな社会をいつげんするためにこどもの心になんて
 意見を聞かないと聞いています。
 このアンケートでは、みなさんがどう思っているのか、どのような気持ち
 を持っているのか、教えてほしい。
 お答えいただいた内容は、小平市がどうなるかのために活用させていただきます。

小平市のとよりくお答えする意見や相談に役立つものにするために、ど
 うぞみなさんの気持ちや考えを教えてください。

■ 答えるときのお願い ■


- 回答は、あなたの心から書いてください。あなたのインターネット検索でこ
 ねらふことでも大丈夫です。ごめんなさいとあきらめず自分の心から書いてください。書
 いてもいい結果はありません。
- じつに思っていることを書いてください。テストではないので、「書きながら思
 い」を書くのはいいです。
- 答えたくない質問は飛ばしても構いません。
- この質問で答えたくない場合は、書き終わるまでおのれの人に伝えてください。
- 秘密に保たれていないアンケートです。ご了承ください。
- 回答を謝罪するので、あなたがどのように答えたいかを伝えてください。

QRコードからインターネットで答える場合は
 8月9日(金)までに
<https://ltpform.jp/Form/ku06/671080> おねがいします。

このアンケートの問い合わせ先

小平市役所 二丁目3番地5 子育て支援課 〒187-8500 小平市小川町二丁目3番地5
 電話：042-348-9016 / FAX：042-348-5550 E-mail：koushokushin@city.hirakawa.lg.jp

意見聴取 の場	④学習支援事業
日にち	令和6年8月22日（木）
場所	福祉会館
対象者	中学3年生向け夏期講習出席者 11人
実施形態	アンケート
意見の 内容	<p>「困っているときは助けてくれる人がいる」「今の生活に満足している」「家族と一緒に心地よい時間を過ごしている」「家では安心して過ごしている」については、「そう思う」「まあそう思う」の割合が多い一方、「そう思わない」を選択した人もいた。</p> <p>周りの人との人間関係を聞いた設問では、「友だちと仲が良い」は「そう思う」「まあそう思う」を全員が選択している一方、家族や学校の先生、家の近くの人との関係がうまくいっていないと回答した人もいた。</p> <p>居場所を聞いた設問では、「自分の部屋」「インターネット空間」が上位になり、学習支援事業の教室を選んだ人もいた。落ち着く場所がないと回答した人はいなかった。</p> <p>今悩んでいることを聞いた設問では、「勉強」「進学」「将来」が上位になった。</p> <p>困ったり悩んだりしたときに相談できる人を聞いた設問では、「友だちや先輩」「お母さん」が上位であった一方、「お父さん」を選択した人がいなかった。</p>


小平市
Kosuke City

あなたの思い、きかせてください

アンケート調査

ご協力をお願い

小平市では、ここがみんなの社会を実現するためにこどもの権利に立つ意見を聴き取っています。

このアンケートでは、みなさんが日ごろのように暮らしているのか、どのような気持ちで生活しているのか、教えてください。

お答えいただいた情報は、小平市が行う様々な取組に活用します。

小平市の取組がみなさん自身の意見や希望にそったものとするために、どうぞみなさんの気持ちや考えを教えてください。

■ 答えるときお願い ■

- 回答は、あなたが自分で書いてください。家でインターネット経由で答えることもできますが、答えたことを誰かに見せたり、盗んでもらう危険があります。
- 自分の思うままに書いてください。テストではないので、「まちがった答え」はあってもいいです。
- 答えたくない質問はとばしてもかまいません。
- この場で答えるときは、書き終わった後の人に渡してください。
- 紙に書いてからインターネットで答えてもいいです。
- 名前を書かないので、あなたがどのように答えたかは誰にもわかりませんので安心して答えてください。


 QRコードからインターネットで答える場合は

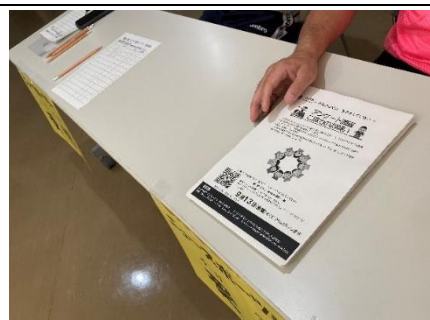
8月31日(土) までに
 おねがいします。


 22歳以下

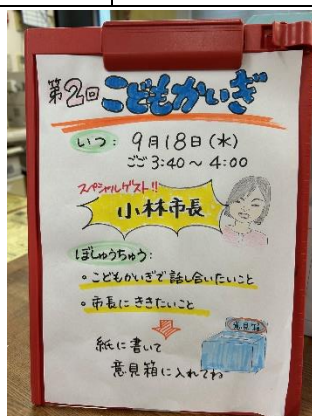
このアンケートの問い合わせ先

小平市役所 ことども課65号 子育て支援課 〒187-8701 小平市小平西二丁目1-203番地
 問合せ 電話：042-546-3935 / 内線：042-546-5230 E-mail: kosukeken@city.kosuke.lg.jp


意見聴取の場	⑤ニュースポーツデー		
日 ち	令和6年9月8日(日)	場所	市民総合体育館・中央公園内球技広場
対 象 者	保護者(子育て世代)等 15人	実施形態	アンケート
意 見 の 内 容	<p>回答は、40代が最も多く、次に60代の方が多かった。こどもの年代は小学生(1～3年)が最も多く、次に(小学生4～6年生)が多かった。</p> <p>○選択式設問</p> <p>「配偶者/パートナーは、子育てにおいて、いざというときに力になってくれている」「配偶者/パートナーのことを信頼している」に対して、未回答以外はすべての方が「そう思う」「まあそう思う」を選択していた。子育ての悩みに関する設問で、「そう思う」「まあそう思う」を選択した割合が半分以上だった項目は、「B 子育ての相談相手の不足」「C こどもの健康や発達・発育」「D こどもの成績や学力」「E こどもの進学や就職」「G 配偶者/パートナーとの子育ての分担」で、逆に半分以上だった項目は、「A 子育てや教育の費用」「F 子育てと仕事や家事の両立」だった。</p> <p>市の子育てに関する情報については、「得ている」「まあ得ている」の割合が一番高かったのが市報の80%で、次に多かったのが市ホームページの47%だった。市公式X、市公式LINE、その他の市公式SNS、こだっこ予防接種&子育て応援ナビは「全く得ていない/知らない」が最も多く、子育てガイドは「あまり得ていない」が最も多かった。</p> <p>○自由記述式設問</p> <p>「あなたが今、子育てに関して楽しいと感じていることを教えてください。」については、こどもの成長につれ、会話が高度になってきていることや、できることが増えてきていることなど、成長が楽しいと感じている意見が多かった。</p> <p>「子育て環境について、ご意見などございましたら入力してください。」については、「乳幼児～小学生の楽しめる場所、環境(今回のイベントのようなもの)をもっと増やしてほしい」「ルネのホールで「誰でも、赤ちゃん連れもウェルカムな」ランチタイムコンサートを月1で開いてほしい」などの意見があった。</p>		



意見聴取の場	⑥令和6年度第2回市民と市長のタウンミーティング		
日 に ち	令和6年9月18日（水）	場 所	小川町二丁目児童館
対 象 者	児童館利用児童 29人	実施形態	対面
意 見 の 内 容	<p>児童の司会で進行した。</p> <p>①市長から、児童館や学校、公園など、こんなのがあったらいい、こういう風だったらもっと楽しいというアイディアを聞かせてほしい。</p> <p>【寄せらせた要望】</p> <p>児童館にWi-Fi、パソコン、充電スペースを設置してほしい、マンガ・本を増やしてほしい、遊ぶものを新しくしてほしい、跳び箱（体操器具）を増やしてほしい、学校に自動販売機が欲しい、駅に無料の自転車駐車場がほしい、サッカーボールを使える公園やグラウンドを増やしてほしい。</p> <p>【市長より】</p> <p>Wi-Fi については、今順番に設置をしていこうとしているところなので、少し待ってほしい。野球やサッカーができる公園は限られるがある、野球は固いボールになると少し難しい。中央公園のサッカーグラウンドについては、人工芝を張る計画があるので、しばらくかかるが楽しみに待っていてほしい。</p> <p>②児童館の運営について、平日にもボルダリングをやりたいという意見について</p> <p>ボルダリングを平日にやりたい理由は、休日に習い事があって児童館に来られないからとのこと。ボルダリングを平日にもやるようになると、遊戯室でドッジボールができなくなる。毎週ではなく、月1回、平日にできるようにしてみてもどうか、という意見に対し、賛成が举手多数であった。そのほか、自分たちで考えて、自分たちで遊びを実行する企画シート（「やってみたい！シート」）があるので、色々企画して楽しんでほしい。</p> <p>③その後、こどもたちと市長とでドッジボールを行った。</p>		



意見聴取の場	⑦青少年リーダー講座参加者への意見聴取		
日 に ち	令和6年10月6日(日)～10月25日(金)		
対 象 者	青少年リーダー養成講座参加者 小学6年生～高校生 11人	実 施 形 態	アンケート
意 見 の 内 容	<p>「あなたについて」「家庭のことについて」「周囲の人のことについて」のそれぞれの設問で、「そう思う」「まあそう思う」と肯定的な回答が80%を超えていたが、「家庭のことについて」のうち、「保護者は私の話を聞いて一緒に考えてくれる」「私の人生について、保護者と一緒に考えて決めている」と、「周囲の人のことについて」の「家の近くの人とは仲が良い」については「あまりそう思わない」「そう思わない」の割合が約30%とほかの設問と比べると高くなっていた。</p> <p>また、「あなたは学校が好きですか。」の設問に対し、「とても好き」「好き」の合計が半数を超えていたが、「どちらとも言えない」が約30%で、「きらい」を選択した人もいた。</p> <p>「あなたにとっての居場所はどれですか。」の設問に対し、「自分の部屋」「自分の部屋以外の家の中」「学校の教室」「友達の家」が上位だった一方、少数だが「コンビニ」「おちつく場所がない」「その他（自由記述：人気のないところ）」を選択した人がいた。</p> <p>「あなたは今、悩んでいることはありますか。」の設問に対し、「特にない」「友だちのこと」が上位となり、「お金のこと」「インターネットやSNSの人間関係のこと」を選んだ人はいなかった。</p> <p>「あなたが困ったり悩んだりしたとき、相談できる人を選んでください。」の設問に対し、多い順に「お母さん」「お父さん」「きょうだい」「友だちや先輩」となった一方、「相談できる人はいない」を選択した人がいた。</p>		


小平市
Kodaira City

あなたの思い、きかせてください～

アンケート調査 ご協力をお願い

小平市では、子どもがみんなの社会を築くために子どもの視点に立つて意見を聴く取組をしています。


このアンケートでは、みなさんが日ごろどのように暮らしているのか、どのような気持ちで過ごしているのか、教えてください。

お答えいただいた内容は、小平市が様々な取組に反映していきます。

小平市の取組がみなさんの意見や希望にそったものとするために、どうぞみなさんの気持ちや考えを教えてください。

■ 答えるときのお願い ■

- 回答は、あなたが自分で書いてください。書いたことを他の人に見せたり、盗んだり複製はしないでください。
- 自分の思うことを書いてください。テストではないので、「まちがった答え」はありません。
- 答えたくない質問はとばしても構いません。
- 名前を書かないので、あなたがどのように書いたかはわかりませんので安心して書いてください。



二次元コードを読み込むか、
URLをコピーしてサイトにアクセスしてください。

**10月25日(金) までに回答を
おねがいします。**

<https://kogotom.jp/2026/>

このアンケートの問い合わせ先

小平市役所 子ども家庭課 子育て支援課
 電話：042-348-0815 / FAX：042-348-6200

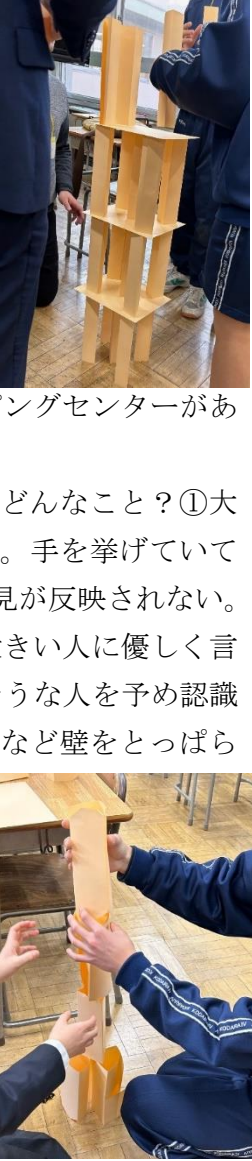
〒187-8701 小平市小川町二丁目1-333番地
 E-mail: kogotatoken@city.kodaira.lg.jp

意見聴取の場	⑧武蔵野美術大学「市の課題に関する報告会」		
日 ち	令和6年11月～12月	実施形態	授業演習
対 象 者	武蔵野美術大学クリエイティブイノベーション学科学生5名		
意 見 の 内 容	テーマ「若い世代が、市に対して自分たちの意見を伝えるためには、どのような手段が有効か」について、2グループに分かれてそれぞれの視点で調査・研究をもらった。		

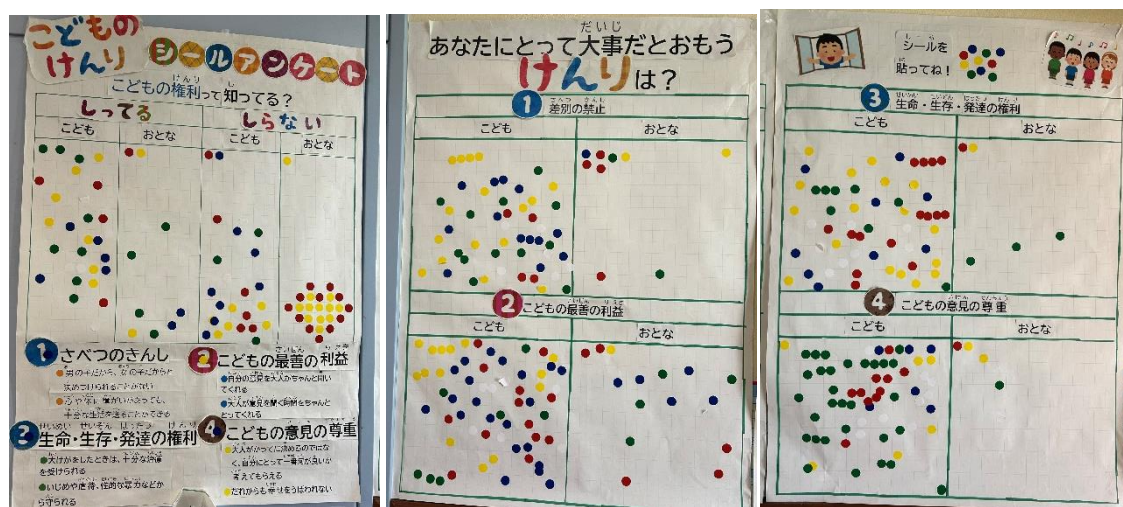
①「ラジオ放送」を活用した意見表明…市職員と対面で話をする事で自分の意見を伝えやすかったと感じた。また大学生を対象に、メールとラジオのどちらの方が意見を言いやすいか調査したところ、ラジオと回答した人のほうが多い結果だった。このことから、学生と市職員が共に話す場があり、さらに色々な人がその話を聞ける場があると意見を言いやすいのではないか、という考察から、事前に収録した番組で具体例を示しながら、ラジオ放送を活用する提案内容であった。ラジオ番組の中で対話形式により意見交換を行い、その場で意見を聴いたり、投稿で寄せられた意見を紹介したりしながら進行する。番組を聴いてもらう工夫は、取り上げた意見には次回の放送時にフィードバックすることや、放送を自分の知り合いに紹介する。また、学生にとっては、対話型意見交換のほかに、自分たちの活動の告知や、自分たちの関心があるテーマなどを取り上げるコーナーがあるとより魅力的である。

②他大学と交流し、意見交換を行いながら、市に対しての提案を行う授業の開講…大学生を対象に、市のことについて考える授業やイベントに参加したいか調査したところ、特に市のイベントに参加したことのある学生や、人と関わることが好き、新しいことにチャレンジすることが好きと回答した学生に、より参加したいと回答した学生が多かった。また、大学生が参加したいと思う要因として、「単位が取得できること」「他大学の学生と交流があること」があることがわかった。このことから、地域の問題に関する対話型授業を実施し、その中で市に対しての意見を提案する。他大学との学生の交流により、新たな視点に気が付くことができたり、また市職員と話し合うことにより、市についての関心をより高めると同時に、自分の意見が言いやすく、また意見がじかに伝わり、意見が反映されやすくなるメリットがある。



意見聴取の場	⑨小平第四中学校生徒会の皆さんの意見を聴く場 普段思っていること・感じていることを教えて！！
日 に ち	令和7年1月14日（火）
対 象 者	小平第四中学校生徒会の生徒7人
実 施 形 態	2つのグループに分かれたグループワーク
意 見 の 内 容	<p>A：小平市の良いところ（好きなどころ）、良くないところ（好きじゃないところ）ってどこ？①小平市の良いところ（好きなどころ）：自然が多く残っているところ。児童館や公園、図書館など、こどもが安心して過ごせる場所があるところ。学校の給食がおいしいところ。坂少なくて自転車の移動がしやすい。</p> <p>②良くないところ（好きじゃないところ）：遊具が撤去されてしまい、何もなくなってしまった公園がある。ボール遊びができる場所が少なくなってしまった。通学路に古くなった空き家があって不安</p> <p>③小平市が今後より良くなるための意見：小平市で行っているイベントをもっと周知してほしい、児童館に Wi-Fi を設置してほしい、大型のショッピングセンターがあると便利</p> <p>B：普段人と話をしていていやだなと思うことってどんなこと？①大人数でいるときに声が大きい人の意見が通りやすい。手を挙げていても、先に言ったもの勝ちという時がある。自分の意見が反映されない。発言するのが怖い雰囲気があることも。工夫：声の大きい人に優しく言う、意見を求めたとき以外の様子を見て、発言したような人を予め認識して司会の時に発言する機会を振る、ため口にするなど壁をとっぱらうルールを作る。②相手が自分を下げた話の仕方「自分は頭が悪いから…」自分よりテストの点数がいい場合や、自信がない、自己肯定感が低いなどがある。相手を敬って謙遜していることもある。自分と人を比べている。工夫：自分の前提を作って話さない、「でもこういう良いところがあるよね」と視点を変える、褒める。</p> <p>③容姿や家柄など、「5秒以内に変えられない」ことを言われること。</p>
写真はアイス ブレイクの様子	

意見聴取の場	⑩シール投票「こどもの権利って知ってる？」
日 ち	令和7年1月19日（日）～1月29日（水）
場 所	小川町二丁目児童館
実施形態	シール投票
内 容	<p>1月19日にこどもスマイルムーブメントの一環で小川町二丁目地域センター公園にて実施した、地域のふれあい動物園「みんなでふれあいどうぶつえん」の来場者と、その後の小川町二丁目児童館来館者を対象に、こどもの権利に関する理解を深めてもらうことを目的としてシール投票を行った。</p> <p>「こどもの権利って知ってる？」については、こどもは「知っている」が29、「知らない」が25で、大人は「知っている」が10、「知らない」が2で、こども・大人ともに「知っている」が多かった。</p> <p>子どもの権利条約の4つの原則のうち、「あなたにとって大事だとおもう権利は？」については、シールの数が多かった順に、こどもは「②こどもの最善の利益」が62、「④こどもの意見の尊重」が61、「③生命・生存・発達の権利」が57、「①差別の禁止」が51であった。</p> <p>おとなは「②こどもの最善の利益」が15、「①差別の禁止」が9、「③生命・生存・発達の権利」が5、「④こどもの意見の尊重」が4であった。</p> <p>※1人がシールを複数貼っているケースもあるので、シールの数は参考値として記載しています。</p>



意見聴取の場	㊦二十歳のつどい実行委員会委員向けアンケート		
日 ち	令和7年1月29日～2月7日		
対 象 者	二十歳のつどい実行委員会委員の4人	実 施 形 態	アンケート
意 見 の 内 容	<p>実行委員として小平市の行事を企画・運営してみて、感じたことを選ぶ設問で、「自分の意見が反映されてうれしかった、やりがいがあった」「今後も市に対して自分の意見が伝える機会があれば参加したい」「自信がついた」「自分のことを以前よりも好きになった」については、全員が「そう思う」「まあそう思う」と回答した。また、「小平市や小平市民の役に立った」については、全員が「そう思う」と回答した。一方、「市の制度や市の取組に自分の意見を伝えられていると思いますか。」については、「そう思う」「まあそう思う」を回答した人が半数で、「あまりそう思わない」を回答した人が半数であった。</p> <p>「今後市に自分の意見を伝えるときは、どのような手段なら伝えやすいですか」の設問に対し、一番多かったのが「様々な人と意見交換（ワークショップなど）しながら伝える」と「アンケートに答える」で、次に多かったのが「LINE や SNS などのオンラインで伝える」であった。</p>		



意見聴取の場	⑫都立小平西高等学校生徒会の皆さんの意見を聴く場 普段思っていること・感じていることを教えて！！
日 に ち	令和7年2月17日（月）
対 象 者	都立小平西高等学校生徒会の生徒9人
実 施 形 態	2つのグループに分かれたグループワーク
意 見 の 内 容	<p>A：小平市の良いところ、良くないところってどこ？</p> <p>○良いところ：①人や雰囲気：人が多すぎない、人があったかい感じ、市民のつながりがある感じ②交通：都心へのアクセスがよい、急行が停まる、バスが多い</p> <p>③まち：自然が多い、大学が多い、美術館がある、住みやすい、道が広い、治安がよい、ホームページがわかりやすい、小さいお祭りがある、シニア向け施設が多い、ルネこだいらのような施設が合唱コンクールで使えるのは貴重</p> <p>○良くないところ（好きじゃないところ）</p> <p>①まち：若者向け施設が少ない、施設の老朽化、買い物をする場所が少ない、夜になると道が暗い、カラオケ、音楽スタジオ、スポーツ施設などがほしい、遅くまで使用できる自習室がほしい、ご飯を食べるところが少ない②交通：自転車がないと移動に少し苦労する</p> <p>B：普段人と話をしていて嫌だなと思うことってどんなこと？</p> <p>○どんなこと：否定ばかりしてくる。自己主張が強すぎる。自分の意見ばかり言ってくる。反応してくれない。グループで話をしているときに自分のことを下げる発言をしてくる。○どんな気持ち：こっちの意見をちゃんと聞いてほしい。意見を言ってほしいわけでない。一部でも共感してほしい。他の人からも同じように自分のことを低くみられる気がする。○どんな工夫：（合唱コンクールに向けた練習の時に）グループの時はグループリーダーのような中心的な人に声をかける。全体には大きな声で話す。（ビデオを撮るなど）客観的に判断できるものを見せて、現状と自分たちの認識の差を理解してもらう。違う視点（違うクラスの先生）に意見を言ってもらう。言ってもダメな人はおいておいて、自分と同じ意見の人を見つけて共感してくれる人を増やしていき、雰囲気を作っていく。2年生のクラスでは「最後の合唱コンクールなんだよ」と説明する。</p>



意見聴取の場	⑬妊婦面談対象者向けアンケート		
日 に ち	令和6年11月～令和7年1月		
対 象 者	妊婦面談参加者	実 施 形 態	アンケート
意 見 の 内 容	<p>令和6年11月～令和7年1月の3か月間に、こども家庭センターでの妊婦面談対象者に、アンケート調査を行った。</p> <p>自身の年齢の問に対し、回答は多い順に「30～34歳」（48%）、「35～39歳」（24%）、「25～29歳」（17%）であった。「妊娠中のお子さんは何番目のお子さんですか」の問に対し、多い順に「1人目」（55%）、「2人目」（28%）、「3人目」（12%）であった。「妊娠後、配偶者（パートナー）は次のことについてどのように協力してくれますか」の問の、「買い物」「掃除」「洗濯」「食事の用意・後片付け」「（上の子がいる場合）上の子の育児」のすべての項目について、「妊娠前から協力している」を選んだ人の割合は78パーセント以上であった。一方で、「掃除」「洗濯」については、「協力してくれない」を選んだ人が数パーセントいた。「妊娠・出産に関して必要な情報」の問に対し、多い順に「妊娠・出産に関すること」（74%）、「保育園幼稚園、一時保育などの預け先」（50%）、「出産・分娩に関すること」「お金のこと」「産休・育休など子育てを支援してくれる制度」（33%）であった。</p> <p>「こどもは何人ほしいか」の問に対し、多い順に「2人」（62%）、3人以上（31%）、「1人」（5%）であったのに対し、「現実的には何人産み育てることが出来ますか」に対し、「2人」（62%）、「1人」（21%）、「3人」（14%）であった。「希望と現実にギャップがあるとしたら、それはなぜか」の問に対し、多い順に「子育てや教育にお金がかかるから」（52%）、「高年齢になってしまうから」（40%）、「育児の精神的・肉体的負担が大きいから」（28%）であった。</p>		

